

## 平成 25 年度(第 13 回) 私立短大入試広報担当者研修会

分科会 : G 6

運営委員 : 修文大学短期大学部 六浦政人

### G 6 分科会報告書

様々なプロフィール(タレント揃い)の参加者が多かった分科会 6 グループ。参加者 17 名を①所在地 ②収容定員 ③男女比率から A~D の 4 グループに分け、初日は「自己紹介」、2 日目以降の分科会では、「仮想短大における予算作り」を題材に、討議~発表までを行った。

#### 1) 初 日~2 日目

(目的 : 他者を認め、最短で自身を売り込む。 → 広報(営業)としての顔作り!)

初日は時間もないため、名刺交換のみ。情報交換懇談会でお酒を触媒として親交を深めた。2 日目の分科会開始と同時に課題として持参いただくよう指示した自己紹介カードを使用し、自身の短大の売り込みも兼ねて自己紹介を行った。

#### 【目標】

分科会でも肝になる「コミュニケーション(=信頼関係を築く道具)」の構築。初対面という緊張状態から、2 日目以降の分科会でブレストできる雰囲気作り。

→ 初日の講演でのグループワークや情報交換懇談会でのお酒を触媒とした語りの場を有効活用。

#### 2) 2 日目

(目的 : 傾聴~気付き~共有というプロセスを体験。 → 他者への働きかけの方法を学ぶ!)

各グループに分かれ、BS法を利用し仮想短大の条件から導き出される広報企画・費目・予算などの内容を付箋に書き出し、KJ法により絞込みを行った。絞り込んだ内容から、更にスリム化し、その内容を反映した予算と広報施策を盛り込んだ仮想短大を各グループで発表。その際に①キラーコンテンツはどこにあるのか②その広報施策にストーリー性はあるかという点にスポットを当て発表していただいた。



#### 【目標】

限られた予算・与えられた環境下で、如何に効果的な広報施策かつ最大限の費用対効果を描くことができるか。また、参加者から寄せられる様々な意見や知恵をBS法やKJ法という手法によって昇華させ、一定の方向へと導いていくプロセス(過程)やロジック(論法・論理・道筋)を学ぶ。もちろん他者への働きかけの重要性も学ぶ。

面識のない広報担当者同士が、分科会を通じ、様々な考えを持つ広報担当者と意見交換することで、

自校での広報活動に活かすことのできる施策を模索する。また、お互いの意見を尊重しあいながら自分の考え（意見）を昇華する（ブレスト）ことで、「脳に汗をかく」。

- 選定した統一の討議内容について各グループで討議。様々な地域や環境・規模で構成された各ユニットで、これまでの経験や様々な考えを融合させ、型にはまった思考をブレイクスルーし、新しい目線を創造できることを目的に討議～発表を行った。
- 図式化することで普段の業務では行うことの少ない「考える」というプロセスがいかに大事かということ学ぶ。
- 全員で考えた案を発表することで、能動的に考えるスイッチが押され、受動的になっていた姿勢に変化を与える。また、それぞれが他者に働きかけることで組織が活性化できるという認識を持つ。

### 3) 最終日

（目的：作業になりがちな「仕事」を改めて考える。 →インプットとアウトプットのバランス！）

各グループでBS法やKJ法を駆使して策定した「仮想短大の広報施策とその予算」について発表を行った。最後に3日間の振り返りとして、分科会・全体会を通しての感想を参加者全員「1分間スピーチ」で締めくくった。



#### 【目標】

他者を認め、他者に働きかけることで変化していく環境を実感・目の当たりにすること、忘れかけていた仕事への情熱や流されていた状況を少しでも打破する。また、インプットに傾倒しがちな仕事を、今回の分科会進行によってアウトプットとのバランスが重要であると気付かせる。

- 「考え、発する」という思考プロセスの重要性を理解した上で、①グループでの意見を集約②感じ・考えた内容を自分の言葉で発する。

## 【反省・感想】

- 1) 限られた時間の中で、参加者に如何に「元気」を差し上げることができるかという点について、毎度のように頭を悩ませる。しかし、他の委員の様々な働きかけの甲斐あって、結果、毎度参加者が「元気」になって会場をあとにする姿を見ると、委員冥利に尽きるというのが正直な感想である。但し、初日のオリエンテーションでの拙い進行や未熟なファシリテートによる分科会進行では、皆様に多大なご迷惑をお掛けしたこと心より反省致します。次回は今回の反省を踏まえ、ブラッシュアップした姿を披露できるよう精進いたします。
- 2) 分科会の討議内容施策においては、各委員からの配慮により問題なく進めることができ、大変感謝いたします。
- 3) 分科会のファシリテートにおいて、当然、事前の周到な準備が必要であるが、日常業務との兼務で参加者には多少の消化不良があったことは否めず、まだまだ運営委員として未熟さ痛感する結果となった研修会でした。(毎度のことであるが・・・) 次回からは周到な準備を行い、研修会に臨みたいと思う。
- 4) 分科会の目的としていた①他者からの意見や知恵を様々な方法で昇華させ、一定の方向へ導いていくプロセスやロジックを学ぶ②他者に対して能動的に働きかけるといった目標に近づくことができたと思われる。

以上

